

食品物流のDX推進を支える 配送見える化ソリューション/頑丈ハンドヘルドFZ-N1



福岡運輸株式会社 様

導入時期：2023年3月

導入地域：神奈川

(全国拡大に向けて活動中)

課題

荷物もルートも日々変化する集配業務を効率化するために、動態管理システムを導入したが、デジタル化したドライバーの業務領域が限定的で、改善の余地があった。

解決策

『配送見える化ソリューション』を既存の基幹システムとリアルタイムに連携させることで、個品単位で配送ステータスの管理が可能となり、ドライバーへの電話確認などの業務を大幅に削減できた。

“パナソニックさんの物流業界への理解度が深く、うまく福岡運輸のニーズを吸い上げていただきました。その点が『配送見える化ソリューション』と、当社『輸送システム』との親和性につながったのだと思います。”



業務推進部
システム課
生津 瑠美 様

※所属は納入時のものです。

背景

物流DXのさらなる推進のために、
煩雑な集配業務全体の可視化に着手

福岡運輸様は、定温輸送における食品業界のニーズや、2024年問題等に、DXを推進することで対応されています。受注業務などのデジタル化を進める一方で、集配業務が長年の課題となっていました。

福岡運輸様の集配業務では、毎日様々なお客様の荷物を積み合わせて、最適な配車計画で集荷・配送をされています。ルート配送と違い突発な集荷依頼もあるため、ドライバーの位置や作業進捗の把握が重要でした。そこで、2016年に動態管理システムを導入。ある程度の可視化はできたものの、集配全体で見ると可視化すべき部分が残っていたとのこと。

導入理由

パナソニックスタッフの深い業務知識と、
システム間連携への前向きな提案を評価。

「多様なお客様から、多種の荷物を納品するため、「どこで何をするか」は把握できましたが、「荷物」の情報が持てませんでした。このため、最後の確認は、どうしてもドライバーに直接電話で確認する必要がありました。」と生津様。また、突発の依頼で、配車組みも変わるため、ドライバーにタイムリーな情報共有ができる仕組みを模索していました。これには、基幹システムとリアルタイムに連携できる「高機能な動態管理システム」と「荷物の情報を読み取る頑丈な端末」が必要でした。

しかし、「基幹システムとのリアルタイム連携を要件に加えると選定が難しくなりました。たいいては、CSVファイルを落としてそこから人力で連携するものが多かったです。」と生津様。「パナソニックコネクトさんのご提案を採用したのは、当社の要件を十分に満たしていたこともあります。それに加えて、端末の動作が検証済みで、システムの安定性に安心感があったこと。また、こちらのニーズをうまく吸い上げて、保守も見据えた提案をいただいたことが大きかったです。「カスタマイズ可能な範囲はここ」と具体的な提案をいただいたのはパナソニック コネクトさんだけでしたね」(生津様)。

お客様紹介

1956年に創業した福岡運輸様は、日本で初めての冷凍輸送を行い、その後の日本の食品物流を大きく変化させました。

現在では定温輸送を武器に、主に食品業界のお客様の荷物を日本中に届けておられます。

■ 所在地 福岡県福岡市博多区空港前2丁目2番26号

■ URL <https://www.fukuokaunyu.co.jp/>

配送見える化ソリューション・頑丈ハンドヘルド FZ-N1

導入後の効果

集配作業をリアルタイムに可視化することにより、従業員の工数削減とサービス品質向上を両立。

以前は、トラックに設置したタブレットで積込みや配達、休憩などのステータスをその都度入力していたという福岡運輸様。『配送見える化ソリューション』の導入後は、リアルタイムに集配先ごとの作業進捗が確認でき、『タフブック FZ-N1』を通じてドライバーと事務所間で集配指示・メッセージのやりとりができています。無駄な電話確認作業が削減され、事務員はコア業務に、ドライバーは運転に集中できる環境になりました。

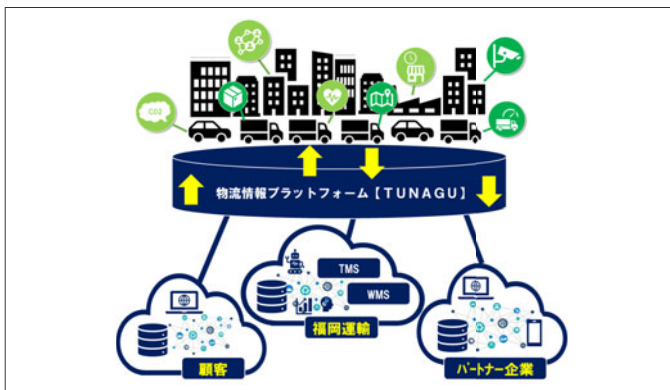
さらに、導入当初は工数増になると懸念されていた、FZ-N1によるデジタル検品も、配送品質の向上につながっていると東京支店の渡辺様。「スキヤンスピードが早く、確実に荷物をチェックでき、少ない工数で誤配送のリスクが軽減されるため、今では無くてはならない作業だと現場では認識されています。」「また効果的だったのが『到着予測時間』機能です。以前は、時間指定便の完了確認のために、午前や夕方に大量の電話確認をしていましたが、今はリアルタイム実績と予測時間を駆使して、素早く状況に対処できるようになりました」。



▲導入前は紙の指示書に対して手書きで検品していた(写真左)。導入後はドライバー用端末のFZ-N1を用いたデジタル検品に(写真右)。



▲無駄な電話確認がなくなり、ドライバーは運転に集中できるようになりました。



▲物流情報プラットフォーム「TUNAGU」の概念図



▲ソリューションと基幹システムのリアルタイム連携により、より機動的な運行管理が可能に(写真左)。突発の依頼による配車変更があっても、タイムリーにドライバーへ共有可能に。(写真右)。

今後の展望

多様化する物流ニーズに対応できるシステムを構想。データ利活用による価値創出・提供を目指す。

福岡運輸様では、さらなるシステム間連携によって、複雑化する倉庫内業務や幹線輸送も可視化して荷物の一貫トレース実現を目指しておられます。「将来的には可視化に加えて、配送業務における実績データ(走行・荷降ろし・作業などの時間、予測と実走行距離、件数など)を分析し、物流のボトルネック解消などに取り組むことで、新たな付加価値の創出・提供を目指します」と生津様。

FZ-N1についても、「全社で一律導入したメリットを最大化するために、様々なアプリを導入して、研修動画、事故情報などをリアルタイム配信できる、配送業務用端末にとどまらない多用途ツールとして活用したい」とお考えです。



▲東京支店・渡辺 浩伸様(左)と業務推進部 システム課・生津 瑞美様(右)

関連機器・サービス



配送見える化ソリューション

- <荷主/運行管理者>
- 位置情報の確認
 - 配送進捗の把握
- <ドライバー>
- 誤配防止アシスト
 - 配送完了報告
 - 撮像



4.7型頑丈ハンドヘルド タフブック FZ-N1

- LTE通信/音声通話対応
- バルコッドリーダー搭載
- 210cm 落下試験実施の耐落下性能
- IP66/68準拠の防塵/防滴/防水性能

